

## 議 事 録

標 題	滋賀プラス・サイクル推進協議会
年 月 日	令和4年7月15日(金) 14:00~16:15
開 催 方 法	ZOOM
<p>1. 開会（伊吹副会長）</p> <p>○今年度の4月1日にピワイチ推進条例が施行された。観光の活性化にも繋がり、滋賀を世界に発信する良い機会。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の流行は観光面にもダメージがあったが、自転車による観光にとっては、追い風となっている。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 副会長および監事の選任について</p> <p>事務局より、副会長に立命館大学工学部環境都市工学科の小川氏と滋賀県バイコロジをすすめる会の伊吹氏を推薦。</p> <p>また、監事に滋賀子育てネットワークの鹿田氏と滋賀県警察本部交通企画課の川田氏を推薦。</p> <p>→異議なし。【可決】</p> <p>(2) 令和3年度事業報告・収支決算について</p> <p>資料1、資料2、資料3、参考2事務局より説明。</p> <p>→委員より意見・質問。異議なし。【可決】</p> <p>(委員) 令和3年度の歳出について、ピワイチアプリへの支出が多く感じるが、本当にここまで多くの費用が必要なのか。また、それだけの効果があるのか。</p> <p>(事務局) 仰るとおり、効果を出していく必要がある。背景としては、「レンタサイクルを利用したいが予約システムが無いため不便」という声があり、一括して予約できるシステムの作成を支援した。現状でも年間1万件のアプリの利用があるが、今後も相互的な利活用を目指すとともに、利便性向上をはかっていく。</p> <p>(3) 令和4年度事業計画案・収支予算案について</p> <p>資料4、資料5、参考2事務局より説明。</p> <p>→委員より意見・質問。異議なし。【可決】</p> <p>(副会長) 意見を募る前に補足。協議会の予算について、ツーリズム事業への予算が大きい。そのため、ピワイチのための協議会だと思われるかもしれないが、ピワイチ条例では、「ピワイチ」は琵琶湖を1周することではなく、滋賀県の色んな地域を自転車でまわることを「ピワイチ」としている。特に重視したのは、県外客を沢山増やすことではなく、基本は県民が自転車で楽しく巡ることができるようにすること。また、自転車の安全利用、マナー、交通ルールについても発信していく。これにより、「誰でも楽しめるピワイチを目指す」のがピワイチ条例の基本方針。今後、すべての人に楽しく自転車に乗ってもらうための1番の推進部隊はプラスサイクル推進協議会となる。なぜなら、様々な団体が協議会に集まっているからである。ピワイチの予算が多いかもしれないが、ピワイチの名のもとで推進されているだけであり、琵琶湖1周のためだけのピワイチ予算ではなく、プラスサイクル協議会の理念がここにあるという話。これを踏まえて意見が欲しい。</p> <p>(委員) ピワイチ商品開発事業について、これは開発者を支援するものなのか、それとも事務局で開発していくものなのか。前者の場合、どのように募集して審査するのか。</p>	

(事務局) 両面ある。事務局として作成できるものは業者に委託して作成する。また、自ら手を挙げてくれている事業所もあり、地域のものについてはピワイチグッズとして適していると考えている。

(委員) 是非、特産品や自然物など、滋賀のものを生かしてコラボレーションして欲しい。

(事務局) 今後もPRしていく。

(委員) ツーリズム予算について、前年度予算額と決算額の歳入と歳出がずれているのはなぜか。

(事務局) 予算額に補正予算が反映できていないと思われる。確認する。

(委員) 令和4年事業について、ピワイチの日を制定したことで観光面でも盛り上げてもらえると思う。大津市としても盛り上げていこうと思っているが、情報発信でどのように連携すればよいか。協議会にはこれだけの人がいるので、他にも何か連携できないかとも思う。また、大津港にサイクルステーションが出来たが、ピワイチの認知が凄さを感じ、関西圏以外の利用客も多い。ピワイチを楽しんでもらっているが、途中リタイヤ出来ないことが一番の課題だと感じている。タクシーと連携したピワイチレスキューの話もあったが、どこかに自転車を置いておける場所があるだけでも違うし、そういったインフラがあるといいと感じる。

(副会長) 乗り捨てや途中リタイヤについては、ピワイチ推進委員会の中でも話になった。

(事務局) 情報発信については市町にはメールで関連イベントの有無について確認した。ピワイチ推進室では各種媒体<sup>参考5</sup>を用いて発信しているため、一緒に発信できるものはないか、という意味合いで確認している。

(事務局) レンタサイクルの乗り捨てについては、プラスサイクル推進協議会発足から何度も協議をしているため、これまでの蓄積を活用して何とかしていきたい。また、ツーリングWGでも申し上げているように、県からのお願いではなく、市町や民間と乗り合いのような形で共に盛り上げていきたいと考えている。是非今後も意見を聞き、情報を共有し、一緒に盛り上げていきたい。

(委員) 事務局の思いと同じなので、共に盛り上げていきたい。

(副会長) サイクルステーション大津港はゲートウェイであり、西の窓口であるそれに対して米原市は東の窓口であり、また、守山市も現在凄く積極的に取り組まれている。是非、他の各市町からも「こういった形で協力できる」といったことがあれば教えてほしいと思う。

(副会長) 輪の国びわ湖推進協議会の田中さん、ピワイチについて先頭で発信してくれている身として何か一言。

(事務局) 琵琶湖一周含め、各市町と一緒にあって、仲良くしながらやっていきたい。また、レンタサイクルについて「乗り捨て」ではなく「途中返却」の方が表現として好ましく、「途中返却をどうするか」と議論していく方が、レンタサイクルについてはいい方向に進んでいくのではないかな。

(副会長) シェアサイクルも盛り上がってきているという話も聞いた。観光だけでなく、自転車の日常利用という面でも盛り上がっていけばと思う。

### 3. その他

(1) 自転車の関係する交通事故の発生状況について

<sup>参考1</sup>事務局より説明。

→委員より意見。

(副会長) 事故状況は事務局の説明のとおり。参考までに、今年の現段階でも自転車の関係する事故は210件。前年度比-12件。死者は4名。怪我は198名。事故の発生状況としては、出会い頭の事故が多い。

(2) 「ピワイチの日」について

(3) ピワイチで発信している広報媒体一覧について

<sup>参考3</sup>、<sup>参考4</sup>、<sup>参考5</sup>事務局より説明。

→委員より意見。

(委員) 発信媒体について、9月上旬にポスターを配布するという話があったが、「今こそ滋賀を旅しよう(県民割)」が延長されたことを受け、少しでも早く(例えば8月中)ポスターが出来れば、県内の宿泊施設や湖北のサイクリストが多く訪れそうな観光スポットに掲示するとよいのではないかと。また、今年度は9月に「おいで〜な滋賀(イナズマロックフェス)」がある。ここでもポスターの掲示など告知をしていただければと思う。

(事務局) 時間がかかる要因として、ポスターは紙の刷り上がりに時間を要している。そのため、電子データについては早めに共有しようと思う。今後も様々な場面で発信していきたい。

(委員) 沢山の情報発信に感謝する。大津市では、11月3日に「大津が一番盛り上がる日」として、ピワイチ以外での盛り上げも考えている。こういったピワイチ以外のイベントもピワイチ推進室の広報媒体より発信してもらえるのか。

(事務局) 関連イベントとして発信させていただく。

(事務局) 同様に、他の市町からも同時期に開催のイベントを共有してもらっている。座長としても働きかけていきたい。

(副会長) ピワイチは自転車で各地の生活や文化を見るなど、県民がそれらのものを知っていくためのもの。ありとあらゆるものが結びつくはず。

#### (4) 滋賀県自転車活用推進計画(第2次)の策定に向けて

参考6事務局より説明。

→委員より意見。

(副会長) プラスサイクルやピワイチなど、自転車施策を推進していく上での骨格になるものだと考える。

(委員) 国の自転車活用推進計画には「多様な自転車の活用」と追記された。タンデム、カーゴ、子ども乗せ自転車などがある。ヨーロッパでは荷物や子どもを乗せられる自転車が普及しており、日本でも普及してほしいと考えるため、計画に入れてほしい。

(副会長) 自転車の概念が変わってきたのは確かである。タンデム自転車については、身体が不自由な方にも自転車を楽しんでもらえるよう、ピワイチ条例の基本方針にも入れた。

(事務局) 開発という点で、県がどういったことが出来るかは現時点で分からないが、先日の琵琶湖の日の清掃でカーゴバイクは活用したことから反映していきたい。

(副会長) 自転車が多様化すると、安全面での問題も生じるため、気を配る必要がある。

#### (5) 各団体の取組等について

(副会長) その他全体から意見、事例紹介、要望などがあれば。

(県警) 県警の新たな取組として、「自転車指導啓発重点地区」を各警察署で指定して発信し、市民への周知を図っている。指定の根拠として過去の事故例や市民からの声を反映しており、事故が起きうる場所を示した。公表した理由としては、県民と一緒に自転車マナー、事故防止の意識向上を目指していきたいというもの。

(事務局) 指定地区で具体的な取り組みなどがあるのか。

(県警) 特に重点的に啓発、取り組みを行う路線・地区という理解で正しい。信号無視や歩道走行など、自転車運転者教習を受けるような違反があれば取り締まる。

(委員) ピワイチの日を中心にイベントをしようと思うが、観光オンリーになるのではなく、マイバッグ、容器包装がない、テイクアウトだと再利用可能な容器など、「流石滋賀、琵琶湖のことを考えているな」と思える取組があるといい。せっかくのグッズなので、環境に配慮したものであってほしい。

(事務局) 例えば、パンフレットなど紙媒体は使って捨てて終わりのケースが多い。これを布製にして今後も使えるものにするなど、工夫したい。ゴミのポイ捨てについてもマナーを発信していく。

(副会長) マナーについてはピワイチ条例の基本方針にも書いたが、ゴミを捨てないより拾って帰るぐらいの方がいい。

- (委員) 2年前、プラスサイクル推進プラン更新の際に改めて内容を確認し、内容に疑問をもった。当時は自転車を交通体系の1つとして位置付けることが目標であり、自転車をもっと活用していこうというものだった。今は観光、地域振興、子どもの教育など、自転車の有効性、考え方が広がってきた。他の市町でも観光振興が多くを占めている。しかし、プラスサイクルプランの目標は協議会設立当初から変わっていない。日常利用に力を入れることも大事なことだと思うが、今の協議会の活動とプランの目標とはズレが生じていると感じるため、見直すべき時期に来ているのではと考える。また、プラスサイクルとは暮らしの選択肢として、自転車も車と同じ選択肢の1つとしていこうという考えであり、2012年当時では新しいものだった。自転車先進地域(ヨーロッパ)では、自転車レーンの整備や、環境整備が進んでおり、車よりも、公共交通、自転車、徒歩を優先して考えている。車より自転車の方が便利な地域を作っていくと、自転車が広がっていく。そのため、自転車と自動車を並列して考えることは時代遅れではと感じる。
- (事務局) 近年滋賀県では観光としてのピワイチが注目され、協議会事業としてもツーリズム事業が大きく占めている状況。貴重な御意見であり今後の課題として受け止める。
- (副会長) 「交通」という理念を大事にしつつ、観光だけではなく、ピワイチの中で、楽しみながら自転車に親しんでもらいたい。SDGs、脱炭素社会にも繋がる。原点を見失わずに取り組んでいきたい。
- (委員) 今、滋賀県内でサイクリングツアーなど自転車活用をしたい市民団体が増えてきている。是非そういった団体に協議会に入ってもらい、現場の意見を取り入れながら進めていきたい。
- (副会長) 協議会ができた当時とは時代が変わってきているため、変えていく必要がある。一方、現状は観光部分が大きく、日常利用をもっと増やしていきたい。委員の意見は、原点を重視すべき、変化していくべき、どちらなのか。
- (委員) 交通体系への位置づけも大事。これも残しつつ、社会、滋賀の状況に合わせて大きく変えていく必要があるのではないか。
- (副会長) 元の視点、新たな視点、両方の視点を考えながら協議会を考えていきたい。

### 3. 閉会(小川副会長)

- プラスサイクル推進協議会発足からかなり長くなってきた。そのため、周囲の状況も変わってきているはず。元々目指してきた部分、変化、それぞれを踏まえながら議論していきたい。
- 自転車について議論したり、プランを立てたり、道路整備などもっと広い様々なプランとも併せて考えていきたい。あまり独立しすぎると良くないと感じる。そのため、もう少し広い範囲の方々とも話していきたい。